

今、わたしができること

小 四

わたしの父母は共働きなので、小さいころからいつもおじいちゃんがそばにいてくれました。保育園のおむかえも、お昼ねから起きたときも、ポテトサラダをいっしょに作ったときもいろいろな場面でやさしいおじいちゃんがいてくれました。だからさびしいと思つたことはありません。

最近のおじいちゃんはよくさがし物をしていきます。母はこれを「たからさがし」とよんでいます。どんなにそがしくても、父母、そしてわたしはたからさがし協力隊になり、おじいちゃ

んといっしょにたからさがしをします。そして、わたしたちが見つけるとおじいちゃんの目に入る所に置きます。すると、おじいちゃんが、

「こんな所に置きわすれていたのか。見つかつて本当によかった。」

と言います。わたしもいっしょにさがせてよかったと思います。おじいちゃんが洋服をうら返しに着ていると、母は、

「おじいちゃんのパッシュン
ショー。」

と言いながら着ていたうら返しの服を着がえさせてあげます。夜中、おじいちゃんが起きてくるときがあります。わたしは何をやっているのか不思議に思いました。そういうときに母は、

「夜のパトロールをしてくれているんだね。」

と言つて、部屋におじいちゃんを連れていきます。

いつもそばにいてくれたおじいちゃんが、今はたからさがしや夜のパトロールでいそがしくなつてしまい、わたしはとても心配になりました。

父母は今までのおじいちゃんと同じ病氣になつたおじいちゃんのことを説明してくれました。病氣のおじいちゃんは、今までいろいろできたことができなくなり、とても不安になつていることが分かりました。だけど、家族が協力することでおじいちゃんも安心することを知り、今、わたしができるところをさがしたいと思ひました。

わたしの家では父の帰りがおそいで、「朝食は必ず家族そろつて食べる」というルールがあります。「いつかわたしのこともわすれちゃうのかな。」と思うときびしくなります。だから、家族そろつて食べる朝食の時間を大切にしたいです。おじいちゃんも病氣になつたかわけではないので、わたしはこれからおじいちゃんのため、わたしをしをいっしょにやりたいとあらためて思ひました。

おじいちゃんは、自分が病氣になつたことで家族みんなの元氣がなくなることは望んでいないとわたしは思ひます。だから今からできることを考え、これからも家族の時間を大切にしたいです。